

大連視察ツアーに参加して

岡本 奈々

6月22日から25日に開催された第3回大連視察ツアーに参加しました。渡航前は海外ということもあり不安が大きかったですが、これまでの自分にはなかった別視点で学ぶことができました。特に食事・文化・価値観・社会性など様々な視点で刺激がありました。

印象に残ったのは「中国と日本とのビジネス感覚の違い」でした。中国企業経営者2名の話聞いて気になったのが、日本との取引において、日本人はレスポンスが速いこと、注文が細かいとのことでした。レスポンスの速さとは、中国側の問いにすぐ返信があるため、早い段階で修正することができ、無駄を少なくすることができる。一方、注文の細かさは、製品の色合いやちょっとしたずれなど、こちら側では誤差と認識する内容について対応を求められ困る、完璧を追求するという点で、価値観が違うと説明されました。

今回のツアーでは、企業視察の他、当日お世話になった現地の方も夕食会にご参加され、流暢な日本語で交流を図ることができましたが、やはり「完璧性」や「細かさ」は皆さん感じられていました。私たち日本人の日常生活における気遣いや心遣い、仕事に対する完璧性などは海外では一般的ではなく、その是非ではなく、違いを理解できたことが収穫でした。

住居に関しても日本との違いを感じました。大連に到着してすぐに目に留まったのは、同じようなマンションが数棟連なる光景の他、マンションの窓が多種多様だったことです。日本では建築基準法や管理組合のルールで、外観や安全性を考慮し、勝手に改築できないと認識していましたが、中国では自己責任で改築できるようで特色のある窓が多数ありました。

ツアーでは現地の方との交流が多かったため、様々なお話を聞かせていただきました。人生で初めて白酒を体験しましたが、中華料理に合うお酒でしたし、乾杯の慣習が参加者の距離をグッと縮めてくれました。食文化の多様性を理解することもできました。

最後に、私は技術者なので、今回のことをすぐ実務に活かせることは少ないかもしれませんが、今後の人生には活かすことができる貴重な体験でした。このような機会があれば、また参加したいし、多くの方に体験してほしいです。